

# 公民館報 まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 50

## モミジの葉っぱが星にみえる!!

## 稲核の七夕飾り

全国的にも珍しい  
ここだけの風習

松本地区の七夕祭りは、月遅れの8月7日に行われている。

6日の朝、七夕飾りに、願い事を書いた短冊を結びつける。そのとき、里芋の葉にたまつた露で墨をすって書くと、字が上手になるといわれた。

安曇地区の大野田・島々・橋場では青竹を使い、大野川では戦前まで七夕飾りをしなかつたという。稲核では昔からモミジやカエデを使っていた。笹や竹が少ないからなのか、ほかに理由があるのかは不明である。

稲核にしかない七夕飾り、願い事が叶えられるとともに、この年中行事が伝承されることを願いながら…。

# 「島内の歴史と文化遺産」刊行!

島内公民館報で連載されたコラム「島内の歴史と文化財」この記事を中心に加筆修正し、「一冊にまとめました。島内地区では初の郷土史誌となります。」



島内歴史文化財調査委員会長の宮田芳彦氏  
(島内地区町会連合会長)

この郷土史誌は、島内に住む郷土史家の大久保知巳氏が昭和52年から平成12年の間、計133回にわたり連載した記事を再編集したものです。旧石器時代から江戸時代初期までの島内の歴史と文化。島内から眺めた松本平の歴史の変遷が、この一冊に凝縮されています。

## 島内地区歴史文化財調査委員会による編さん

大久保氏のコラムは史料と

## 難航する編さん作業

しての価値も高く、一冊にまとめる話が地区内でわき上がり。当初は簡易的な冊子を想定していましたが、検討が進む中で「どうせなら立派なもの」と、目標を上方修正。平成29年には、町会連合会・町内公民館長会・島内史談会による島内地区歴史文化財調査委員会が編さんを開始し、事務局は公民館が担当しました。

紆余曲折を経て、何とか市の補助金を確保する事ができました。とはい

え、133回にわたる記事をまとめる作業です。おまけに掲載開始から40年以上が経過しており、使われている

## 編さんを通して得られたもの

島内は非常に広い面積を有します。それだけに離れた町会同士では、どうしても交流が薄くなりがちです。しかし、今回の製作を通し思わぬつながりが得られました。

例えば平瀬城跡です。犀川を挟んで東側にあり、島内でも有数の文化遺産です。ところが地区の端に位置するためか、普段から整備に訪れていたのは、平瀬城跡一口城主会などの10数人ほど。それが編さんなど一連の作業により、地区の人びとにも重要性が浸透し始めます。それらが地域を見直す契機となったのです。

## 松本さんぽ

### 〈新しい生活様式で暮らす〉

なわて通りのカエルたちも、行き交う人びともマスク。3密回避のために変わってしまった日常。以前と同じ生活が戻るとは思えないけれど、一日も早くキレイな空気を吸いたい。笑いながら食事もしたい。カエル大明神に一礼!

(撮影: 2020.6.16 縄手)

## 未来に向けて

郷土史誌製作の話が出てから5年余り。ご尽力された大久保氏は、令和元年7月に93歳で永眠されました。全ての校正を済ませた後のことです。

地域で連携と受け継がれてきた伝承や文化財などを後世へ引き継ぐため、この本が一助となればと、大久保氏も願っていたことでしょうか。

ところで私たちは、自分の住んでいる地区の歴史や文化財について、どれくらい理解しているでしょうか? それらを意識するには、何かしらキツ

カケが必要となりそうです。

この郷土史誌は、補助金で1000冊製作されました。島内の各町内公民館で保管や貸出しを行い、島内小学校や松島中学校、研究者に寄贈しました。

さらには、300冊を増刷。一般にも販売中です。



B5版で全236ページ  
お問合せは島内公民館まで  
0263-4710264



3月まではいつもと変わらなかつた風景が、4月14日に長野・松本圏域に「新型コロナウイルス警戒宣言」が発令されると、あつという間に今まで見たこともないような姿になったことは、皆さんも感じたと思います。三密防止が求められて、各種イベントや会合の多くが中止になり、出歩くことも躊躇するようになりました。市内

自粛がきっかけ

これまでは長い期間の経過による町の情景の変化をテーマにしてきましたが、今回はコロナ禍のまつもとの今を追って、生活の変化に焦点を合わせました。

まつもと今昔

49



のどこの街角でも人の流れの減少がありました。多くの観光地では来訪者、受け入れ側双方の不安感が作用して極端に人の動きが止まりました。住人が少ない地区ほど影響が大きく、より一層閑散とした風景が出現しました。

気持ちの変化も

風景だけでなく、人の心にも変化をもたらしました。一時は様々な情報に振り回されたこともありましたが、次第に落ち着いてきました。人びとには、密閉・密集・密接の回避が求められ、手洗い・マスクが日常となりました。

新任公民館職員

- 公民館長: 第一地区 水野 範明, 第二地区 赤沼 礼一, 第三地区 白澤 幸男, 島内 上條 光司, 和村 萩原 正人, 新村 新村 芳男, 里山 小幡 泰俊
公民館主事: 中央 中村 安広, 中央 斉藤 浩伸, 中央 平林 紀子, 第一地区 森田 耀子, 第二地区 窪田 陸, 第三地区 樋口 美智子, 城北 西澤 瑞恵, 安原 板花 良太, 城東 朝倉 光貴, 田川 大月 悠太, 鎌田 川西 久美, 松南 伊藤 貴浩, 島立 浅井 勇太

ご近所さんや友だちと会って話をすることがどれだけ心を和らげていたか、知らされませんでした。現在も緊張した日々を過ごしながら、生活を元に戻そうとしています。5月25日には全国的に緊急事態宣言が解除されました。半年



前の生活に戻るのには無理でも、せめてマスクを外して人と自由に会話ができる状態に戻ってほしいものです。

令和2年度 館報全市版編集委員

- 第一 山内 敦子, 第二 井上 貞由, 第三 小上 恒嗣, 第四 尾田 智浩, 第五 小澤 智浩, 第六 尾田 智浩, 第七 尾田 智浩, 第八 尾田 智浩, 第九 尾田 智浩, 第十 尾田 智浩, 第十一 尾田 智浩, 第十二 尾田 智浩, 第十三 尾田 智浩, 第十四 尾田 智浩, 第十五 尾田 智浩, 第十六 尾田 智浩, 第十七 尾田 智浩, 第十八 尾田 智浩, 第十九 尾田 智浩, 第二十 尾田 智浩, 第二十一 尾田 智浩, 第二十二 尾田 智浩, 第二十三 尾田 智浩, 第二十四 尾田 智浩, 第二十五 尾田 智浩, 第二十六 尾田 智浩, 第二十七 尾田 智浩, 第二十八 尾田 智浩, 第二十九 尾田 智浩, 第三十 尾田 智浩, 第三十一 尾田 智浩, 第三十二 尾田 智浩, 第三十三 尾田 智浩, 第三十四 尾田 智浩, 第三十五 尾田 智浩, 第三十六 尾田 智浩, 第三十七 尾田 智浩, 第三十八 尾田 智浩, 第三十九 尾田 智浩, 第四十 尾田 智浩, 第四十一 尾田 智浩, 第四十二 尾田 智浩, 第四十三 尾田 智浩, 第四十四 尾田 智浩, 第四十五 尾田 智浩, 第四十六 尾田 智浩, 第四十七 尾田 智浩, 第四十八 尾田 智浩, 第四十九 尾田 智浩, 第五十 尾田 智浩, 第五十一 尾田 智浩, 第五十二 尾田 智浩, 第五十三 尾田 智浩, 第五十四 尾田 智浩, 第五十五 尾田 智浩, 第五十六 尾田 智浩, 第五十七 尾田 智浩, 第五十八 尾田 智浩, 第五十九 尾田 智浩, 第六十 尾田 智浩, 第六十一 尾田 智浩, 第六十二 尾田 智浩, 第六十三 尾田 智浩, 第六十四 尾田 智浩, 第六十五 尾田 智浩, 第六十六 尾田 智浩, 第六十七 尾田 智浩, 第六十八 尾田 智浩, 第六十九 尾田 智浩, 第七十 尾田 智浩, 第七十一 尾田 智浩, 第七十二 尾田 智浩, 第七十三 尾田 智浩, 第七十四 尾田 智浩, 第七十五 尾田 智浩, 第七十六 尾田 智浩, 第七十七 尾田 智浩, 第七十八 尾田 智浩, 第七十九 尾田 智浩, 第八十 尾田 智浩, 第八十一 尾田 智浩, 第八十二 尾田 智浩, 第八十三 尾田 智浩, 第八十四 尾田 智浩, 第八十五 尾田 智浩, 第八十六 尾田 智浩, 第八十七 尾田 智浩, 第八十八 尾田 智浩, 第八十九 尾田 智浩, 第九十 尾田 智浩, 第九十一 尾田 智浩, 第九十二 尾田 智浩, 第九十三 尾田 智浩, 第九十四 尾田 智浩, 第九十五 尾田 智浩, 第九十六 尾田 智浩, 第九十七 尾田 智浩, 第九十八 尾田 智浩, 第九十九 尾田 智浩, 第一百 尾田 智浩

おこひる

蜂を飼い始めた。5月5日の午後5時頃用意した巣箱に引っ越しが完了した。昨春、初めて日本蜜蜂の一群を譲っていただき、自家製蜂蜜でハチミツトーストの夢を見ていたところ、10月頃集団脱走されてしまい今年で2年目。入居以来蜜蜂達をハッチャンズと名付けて朝・昼・晩と蜜蜂を眺めるのが日課となった。ハッチャンズは日の出には巣から飛び出して行き、日が昇る頃には巣の出入口は黄色い花粉を付けた帰還組と、これから出て行く出勤組が交互に行き交い大混雑となる。暑くなる日中には入り口に一列になって巣の内部に風を送る姿は誠に美しい。勤勉さを言い表す蜜蜂を日がな一日眺めている翁を世の人や神様はどう見ているのか。さて蜂の世界もなかなか大変で、今年は毛虫が大発生し松や果樹の消毒が行われたり、蜂の伝染病による子捨て、スムシ(蛾の幼虫)やオオスズメバチとの死闘など。来春の自家製ハチミツトーストへの道程は、東京オリピック開催と同じくらい関門の連続と思われる。

歴史探訪 **探ろう松本 18**  
 時を超えて流れる三つの通り 城東地区  
 お城の鬼門と女鳥羽川と路面電車

地区の概要

城東地区は松本城の北東に位置し、昭和34年5月に安原地区から分離独立して発足しました。5月1日現在、1905世帯で人口は3625人。女鳥羽川を境に、西側は曙町、岡の宮、岡の宮西、岡の宮文園町、女鳥羽町、北上横田町、和泉町1、2丁目の8町会、東側は元町上、北、中、南の4町会、合計12町会で構成されています。主要道路は西側には国道143号線(旧善光寺街道)が、東側にはやまびこ道路(国体道路)がそれぞれ通っています。西側と東側で町の様子も歴史も大きく異なります。

鬼門鎮護の歴史の香り

西側の善光寺街道沿いは町人町、職人町として賑わっていました。また松本城の鬼門(北東)に位置していることから鬼門鎮護として、岡宮神社、大安楽寺、寶榮寺などの神社仏閣が数多く建てられています。



浅間線の電車と軌道  
 (写真提供: 旧開智学校)



整備された河川敷  
 住民の憩いの場

路面電車はやまびこ道路に

東側には、大正13年から昭和39年まで松本電鉄の路面電車(通称チンチン電車)が走っていました。駅前通りとは異なり、専用軌道があり、廃線直後はバス専用道路に転用されましたが、昭和53年のやま

ヤキの巨木が見事な岡宮神社の本殿は、市内では数少ない江戸時代初期の建物です。塔が色彩鮮やかな大安楽寺には、新春厄除祈禱の際に大わらじが奉納されます。

古い街並みも近年は少子高齢化、人口減少が著しく、空き家や空き地の目立つ町会もあります。

女鳥羽川に架け橋

女鳥羽川で地区が二分されていますが、道路橋のほかにあさひ橋(昭和63年竣工)、南浅間橋(平成元年)、元女橋(平成7年)の3つの人道橋が整備され、人の行き来が容易になりました。また河川敷はきれいに整備され、憩いの場所となっています。1月には三九郎がいくつも作られ子ども

びこ国体開催に伴い、連絡用道路として整備されました。道路沿いにはスーパーやホームセンター、飲食店などができ、周辺の桑畑や田んぼは宅地に変わり、現在では東側の人口が西側を超えています。

これなあに?

形見石

今井地区下今井の今井諏訪神社に「今井四郎兼平形見石」が祀られています。これは近くの林を開墾していた時に出土したそとです。

兼平は平家物語で有名ですが、今井の開発を進め、市が立つ街へと発展させた、郷土の英雄です。



松本平の野鳥たち

スズメと同じくらいの大きさの夏鳥。「ヒンカラカラカラ…」と力強く囀り、この鳴き声が馬のいななきに似ていることから駒鳥(コマドリ)の名に。日本三銘鳥の一つ。(他はウグイス、オオルリ)谷沿いの暗い林の下部を好む。夏の上高地では、ミソサザイと共に大きな鳴き声が響き、人気の高い野鳥。



(撮影: 2020.5.1 安曇野市一ノ澤)